

第1章

研究の概要



第1章 研究の概要

1. 研究の目的と内容

特別区においては、以前から若年単身者（34歳以下）が全国や東京圏と比較して多いことはよく知られているが、近年増加傾向を示している壮年期（35～64歳）の単身者に対しては十分に目が向けられてこなかった。単身のまま高齢期に入ると、現在の高齢者よりも一層孤立的な状態に置かれる可能性も高いことから、壮年単身者の現状や将来に対する意識等を明らかにするとともに、政策的にどのような枠組みで捉えていくかを検討する必要がある。

令和元年度は、全国・東京圏の中での特別区部という視点で、市区町村単位で単身者の属性の変化を分析するとともに、3区（世田谷区・豊島区・墨田区）を対象にアンケート調査を実施し、その基本的特性の把握を行った。その結果、壮年期の未婚単身者が特別区部に地域的差異を伴いつつ集中する傾向があること、人間関係が薄い層が確実に存在すること、6割が定住意向を持つことなどが明らかになった。

今年度（令和2年度）は、昨年度の調査、分析、議論を踏まえて、東京区部における壮年単身者をより深くかつ多角的に分析することに力点をおいた。

第一に、昨年度実施したアンケート調査データを用い、壮年期単身者とはどのような人々かをより明確にするとともに、「1人で過ごす」という生活行為について深く分析した。

第二に、壮年期単身者に対するインタビュー調査を実施した。当初は、アンケート調査対象者から抽出してインタビュー調査を行うことを考えていたが、コロナウイルス感染拡大防止上、面談によるインタビューは実施不可能となったため、別途募集した人々へのインタビューを遠隔方式で実施した。

第三に、東京区部の壮年期単身者の動向を明らかにするために、東京区部全体の単身者のコーホート分析を行った。本研究のタイトルは、「特別区における小地域人口・世帯分析及び壮年期単身者の現状と課題」であるが、小地域（町丁単位）では、特別集計を行ったとしても取得できるデータに制約があるため、単身者の属性間の豊富なクロス集計が得られる東京区部を集計単位とした分析に重点をおいた。

第四に、東京区部の壮年期単身者は区部外との移動によって入れ替わりながら増加している点に着目し、移動傾向を詳細に分析した。令和2（2020）年はコロナウイルス感染拡大に伴う生活上の様々な変化があった年であり、限定的なデータの分析であるが、その影響についても考察した。

2. 研究の方法

(1) アンケート調査

アンケート調査の方法と回収結果については昨年度の報告書に掲載したが、ここに再掲しておく。

図表1-1 調査方法

- ・調査対象：世田谷区、豊島区、墨田区の35-64歳の単独世帯の単身者
- ・調査方法：質問紙調査・郵送法
- ・調査項目：質問紙を9つのパートに分けて、現居住区での居住状況、以前の居住状況、居住区への要望、家族（親・きょうだい・子）とのつながり、知人・友人・地域とのつながり、日常の過ごし方、食生活・健康の状況、高齢期の生活の見通し、基本属性（性別、学歴、仕事の状況、くらし向き、生活費、年収）等をたずねた。
- ・抽出法：各区の住民基本台帳より単独世帯を各区5,000人単純無作為抽出
- ・調査期間：令和元(2019)年10月1日～31日
- ・その他：調査項目の作成にあたり3区の担当者と協議し、質問紙に対するご意見、ご要望、ご提案等をいただいた。住民基本台帳からの抽出作業は全面的に各区のご協力いただいた。各区のご担当の皆様ならびに調査の回答にご協力いただいた区民の皆様に深く御礼申し上げます。

図表1-2 抽出数と有効回収数

	A) 抽出数 (配布数)	(配布されなかった数)		D) 有効 回収数	E) 推定有効 回収率% [D ÷ (A-B-C)]
		B) Aのう ち不在返送 数(*1)	C) Aのう ち 「一人暮らし ではない」 返送数(*2)		
世田谷区	5,000	163	177	868	18.6%
豊島区	5,000	161	144	845	18.0%
墨田区	5,000	158	131	885	18.8%
合計	15,000	482	452	2,598	18.5%

注1 その住所に該当者が居住しておらず返送された数

注2 質問紙の最初に「一人暮らし」であるかどうかのフィルター質問で「一人暮らしではない」と回答して返送された数

(2) インタビュー調査

調査対象者の選定

20名のインタビューについてはその募集を調査会社に委託した。調査会社では事前にウェブサイトなどで様々な調査に参加を希望する人を募集しており、その中から今回の調査内容に合致する対象者（23区在住単身者、40代および50代）を居住区が偏らないよう絞り込んだ。その後、個別に連絡を行い、本研究の趣旨を説明し承諾を得た方かつ通信機器等の準備が可能な方と日程の調整を行った。また、区のご協力をいただき、チラシによる参加者募集を行った結果、2名の23区在住単身者の方の参加を得ることができた。すべての参加者にはインタビューへの同意書に署名をいただき、別途規定の謝金が支払われた。なお、選定にあたっては40代と50代を対象としたが、結果的に30代と60代が1名ずつ加わった。

調査方法

ビデオ会議システムによるオンラインインタビューとし、22名の方に個別に実施した。研究員2名（もしくは研究員1名と事務局1名の立ち合い）により約1時間から1時間半聞き取りを行った。うち1名は通信状態不良のため音声のみで聞き取りを行った。内容は録音され、個人を特定しない方法でメモに記録された。すべての過程で、個人情報保護に対する手続きを徹底した。

調査項目

昨年度実施したアンケート調査に沿って、参加者のこれまでの居住歴、職業歴、家族や友人との社会関係、日常生活、将来への展望などを聞き取った。また今回あらたにコロナ禍における暮らしや不安などについても質問を行った。

今回新型コロナにより様々な影響がある中、インタビューにご協力いただいた皆様に深く御礼を申し上げます。また、このような状況下インタビューの実施には多くの困難がありましたが、調査会社の迅速な手配、墨田区のご協力により、22名のインタビューを短期間で安全に実施することができました。御礼申し上げます。

(3) 国勢調査データの分析

e-Stat上に蓄積されている国勢調査および住民基本台帳人口移動報告のデータを用いた。主に用いたデータは、1980年から2015年までの単身者の年齢属性、配偶関係属性、就業属性に関するデータ、人口移動に関するデータ、小地域データ等である。国勢調査データは、2010年調査以降、年齢や配偶関係の「不詳」が増加しており、東京区部の2015年では、単独世帯の37%が配偶関係不詳となっている。分析に際しては補正をかけている。詳細は本論を参照していただきたい。